

せんご しゅうねんきねん
戦後80周年記念

せんそう へいわ かんが
戦争と平和を考える
こ ほん
子どもの本

2025



いいね! がいっぱい

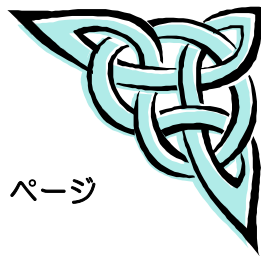
日立市

ひたちしりつきねんとしよかん
日立市立記念図書館

た が と しよ かん
多賀図書館

じゅうおう と しよ かん
十王図書館

なん ぶ と しよ かん
南部図書館



もくじ

ページ

よ^よ読んでほしい本^{ほん} 1～28

よ^よ読んでほしい本^{ほん}に出てくる言葉^{ことば}
. 29～31

ひ^ひたちし^{たちし}の戦災^{せんさい}の記録^{きろく} . . . 32～34

※リストは、書名の五十音順に並んでいます。

※〔 〕は、図書館で使用している本の分類を表します。

※（ ）は、テーマを表します。



記念：記念図書館

多賀：多賀図書館

十王：十王図書館

南部：南部図書館

よ ほん 読んでほしい本

あか ママ ひ よる
赤ちゃんとお母さんの火の夜

早乙女勝元 作 タミ ヒロコ 絵

新日本出版社

[210 アカ]

とうきょうだいこうしゅうちよくぜん う あか かあ しょういだん
東京大空襲直前に生まれた赤ちゃんとお母さんを焼夷弾
なか ふとん はこ まち いし かんごし
の中、布団にくるんでタンカで運び、守りきった医師と看護師
さんたち。忘れてはいけない大空襲秘話。

(東京大空襲)

あき
秋

かこさとし 文・絵 講談社

[絵本]

せんそう ひ さん つら くる けっ わす
戦争の悲惨さ、辛さ、苦しさを決して忘れてはならないこ
と。二度と戦争を繰り返してはならないこと。あき だいす
た作者が、へいわ あき つ かさ
平和な秋を積み重ねてゆくために、せんそう つよ おも
い子どもたちに伝えようとした作品です。

(太平洋戦争)

あのころはフリードリヒがいた

ハンス・ペーター・リヒター 作

上田真而子 訳 岩波書店

[943 リヒ]

おさな じん だいにじせかい
幼なじみのフリードリヒは、ユダヤ人でした。第二次世界

たいせんか じんはくがい かれ いっか およ
大戦下のナチスのユダヤ人迫害は、彼の一家にも及びました。

(ナチス ユダヤ人)

あるひあるとき

あまんきみこ 文 ささめやゆき 絵

佐藤仁史 解説監修 のら書店 [絵本]

第二次世界大戦中、中国の大連にすんでいたわたしには、こけしのハッコちゃんという、たいせつなともだちがいました。でも、戦争がおわり日本にひきあげることになると…。作者が大連ですごした、わすれられない日々を描いたお話です。
(生活)

ある日、戦争がはじまった

イエバ・スカリエツカ 著 神原里枝 訳

小学館クリエイティブ [986スカ]

12歳の少女イエバの人生は、2022年2月にロシアのウクライナ侵攻が始まったことで一変しました。彼女が祖母と暮らすハルキウは攻撃下に置かれ、地下へ避難したイエバは戦争体験を日記に書き始めました。

(ウクライナ)

アンネのこと、すべて

アンネ・フランク・ハウス 編 小林エリカ 訳

ポプラ社 [289フラ]

アンネ・フランクが生きたのは、どのような世界だったのでしょうか。「ヒトラーはなぜユダヤ人を嫌ったの?」「《隠れ家》は退屈じゃない?」アンネの誕生から死、そして今までをたどります。
(ナチス ユダヤ人)

アンネの日記 ^{にっき} 増補新訂版

アンネ・フランク 著 深町眞理子 訳

文藝春秋

[949 フラ] 記念、多賀

[949.35 フラ] 十王、南部

アンネが^{かく}隠れ^が家で^か書きとめていた^{にっき}日記は、^{いま}今も^{せかいじゅう}世界中の^{ひとびと}人々に^よ読みつがれています。（ナチス ユダヤ人）

いのちは贈りもの ^{おく}

フランシーヌ・クリストフ 著 河野万里子 訳

岩崎書店

[956 クリ]

6歳^{さい}から12歳^{さい}でホロコーストという^{かこく}過酷な^{さべつ}差別と^{ぎゃくさつ}虐殺を^{けいけん}経験した^{ちよしゃ}著者による^{しゅき}手記です。^{とうじ}当時の^{にっき}日記をもとに、^{してん}まっすぐな^{とうめいかん}視点と^{あつとうてき}透明感、^{りんじょうかん}圧倒的な^{じじつ}臨場感で、^{つた}さまざまに^{じじつ}できごとや^{つた}事実を伝えています。（ナチス ユダヤ人）

いえ

カテリナ・ティホゾーラ さく

オレクサンドル・プロードン え

すぎもとえみ やく

汐文社

[絵本]

ぼくはパパとママといぬの^ひテレシクと、^{せんそう}すてきな「いえ」に^{ねん}すんでいました。ある日、戦争がはじまって…。2022年2月、ロシアが^{がっ}ウクライナ^{しんこう}侵略を開始し、^{かいし}大勢の^{おおぜい}人が^{ひと}いえを^{うば}奪われ^{せんそう}ました。戦争で^{うしな}いえを^{しょうねん}失った少年の、^{へい}平和を^わ願う^{ねが}物語^{ものがたり}です。（ウクライナ）

いつかの約束^{やくそく} 1945

山本悦子 作 平澤朋子 絵

岩崎書店

[F ヤマ]

自分は9歳^{じふん}だと言うおばあさん^{さい}に出会^いった、ゆきなとみく。
いっしょに町^{まち}を歩き回^{ある}ったふたりは後日^{まわ}、意外な場所^{ごじつ}で彼女^{いがい}と
再会^{さいかい}しました…。戦争^{せんそう}について語り合^{かた}った、忘れられない夏^あの
一日^{いちにち}を描^{えが}いた物語^{ものがたり}です。 （空襲 生活）

うしろの正^{しょうめん}面だあれ

海老名香葉子 作 千葉督太郎 画

金の星社

[914 エビ]

かよ子は、東京大空襲^{とうきょうだいくうしゅう}で兄一人^{あにひとり}を残^{のこ}して家族^{かぞく}を失^{うしな}いまし
た。「かよ子は明るくて人^{ひと}に好^すかれる子だから、元気^{げんき}だし
て。」この言葉^{ことば}を支^{ささ}えに生^いき抜^ぬきます。 （東京大空襲）

絵^えで読む^よ広島^{ひろしま}の原爆^{げんぱく}

文 那須正幹 絵 西村繁男

福音館書店

[319 エデ]

原爆^{げんぱく}の全体像^{ぜんたいそう}をとらえた科学^{かがく}絵本^{えほん}です。8月6日^{がつ}の広島^かの
出来事^{できごと}は、過去^{かこ}ではなく、現在^{げんざい}、未来^{みらい}につなが^{つた}っていることを
私^{わだし}たちに伝^{つた}えています。 （原爆 広島）

えほん

絵本おこりじぞう

山口勇子 原作 沼田曜一 語り 四国五郎 絵

金の星社

[絵本]

げんし ばくだん ひばく ちよくご ひろしま ぜんしん お おんな こ
原子爆弾被爆直後の広島で、全身にやけどを負った女の子
が水を求めて「わらいじぞう」の前で倒れました。すると、
ほほえ う かお か
微笑みを浮かべていたおじぞうさんの顔がみるみる変わって
きました。(原爆 広島)

きせき

エリカ奇跡のいのち

ルース・バンダー・ジー 文

ロベルト・インノチェンティ 絵

柳田邦男 訳 講談社

[絵本]

だ い に じ せ かい だ い せん ちゅう きょう せい しゅう よう じょ む き し ゃ な か ひ と り
第二次世界大戦中、強制収容所に向かう汽車の中から一人の
あか ぼう な た し む き し ゃ い の
赤ん坊が投げ出されました。死に向かう汽車から生き延びたエ
リカの物語です。(ナチス ユダヤ人)

えんぴつびな

長崎源之助 作 長谷川知子 絵

金の星社

[絵本]

そ かい さ き がっこう と ち だ ち わ た し
疎開先の学校で友達になったシンペイちゃんは、私には
しん せ つ えん ぴ つ つ く ぼ ん くう しゅう
親切で、鉛筆で作ったおひなさまをくれました。その晩、空襲
でシンペイちゃんは、亡くなりました。(空襲 生活)

おかあさんのいのり

武鹿悦子 さく 江頭路子 え

岩崎書店

[絵本]

あか ちゃん^うが生まれたお母^{かあ}さんは、子どもが平和^{へいわ}な日常^{にちじょう}を過^すごしていき、すくすくと成長^{せいちよう}していくことを祈^{いの}ります。「そのてが、どうか銃^{じゅう}などにぎりませんように。」

お母^{かあ}さんが語り^{かた}かける、平和^{へいわ}への願^{ねが}いが込^こめられた絵本^{えほん}です。
(生活)

おとなになれなかった 弟 たちに・・・

米倉齊加年 作 偕成社

[絵本]

たいへいようせん^う末期^{おとうと}に 弟^うが生まれました。小学四年生^{しょうがくよねん}だったぼくは、お腹^{なか}がすいて、弟^{おとうと}の配給^{はいきゅう}のミルクまで隠^{かく}れて飲^のんでいました。

えいようしちょう^し栄養失調^{おとうと}で死^しんだ 弟^{おとうと} へのぼくの罪悪感^{ざいあくかん}と母^{はは}の悲しみ^{かな}が伝^{つた}わってきます。
(生活)

かけふみ

朽木祥 作 網中いづる 絵

光村図書出版

[F クツ]

ひろしま そ ば いえ なつやす す たく み せんぜん がっこう
広島^{ひろしま}の祖母^{そ ば}の家^{いえ}で夏休み^{なつやす}を過^すぐす、拓海^{たく み}。戦前^{せんぜん}は学校^{がっこう}だった児童館^{じどうかん}の図書室^{としょしつ}で、三つ編^{みつ}みの女^みの子^{おんな}と出^こ会^でいます…。
しょうねん しょうじょ ふ し ぎ ひとなつ ものがたり げんばく へい わ

少年^{しょうねん}と少女^{しょうじょ}の不思議^{ふ し ぎ}な一夏^{ひとなつ}の物語^{ものがたり}です。原爆^{げんばく}や平和^{へい わ}について深く知^{ふか}ることができるくヒロシマへの道^{みち}しるべ^{おさ}も収^{おさ}められています。
(原爆 広島)

風が吹くとき

レイモンド・ブリッグズ 作

さくまゆみこ 訳 あすなろ書房

[726カゼ]記念

[726. 1カゼ]多賀、十王、南部

核戦争によって、老夫婦が犠牲になっていく姿を描いたイギリスの絵本です。 (核戦争)

ガラスのうさぎ 新版

高木敏子 作 武部本一郎 画

金の星社

[F タカ]

1945年 作者は、12歳の時に東京大空襲でお母さんと二人の妹を亡くしました。さらに戦闘機の機銃掃射によってお父さんまで奪われました。 (東京大空襲)

かわいそうなぞう

つちやゆきお ぶん たけべもといちろう え

金の星社

[絵本]

日本が戦争をしていた頃、動物たちも戦争の犠牲になりました。上野動物園でも多くの動物たちが殺されました。そして、人気者の三頭の象たちも命を落としました。 (動物)

きいろ ほし 黄色い星

カーメン・アグラ・ディーディ 文

ヘンリー・ソレンセン 絵 那須田淳 訳

BL出版

〔絵本〕

第二次世界大戦の頃、ヨーロッパではナチスドイツの勢力が増し、隣接するデンマークにも暗い影を落としていました。「ユダヤ人は、全員黄色い星を付けなければならない」という命令がくだった時、デンマークの国王、そして人々はどうしたのでしょうか。（デンマーク ユダヤ人）

き 聞かせて、おじいちゃん

横田明子 著 山田朗 監修

国土社

〔319 キカ〕

おじいちゃんが心の奥底に閉じ込めてきた原爆の記憶。孫の自由研究のために語り始めたことがきっかけで、失われたある被爆体験を、「語り部」の活動をとおして子ども達に話して伝え始めたおじいちゃん達のお話です。

（原爆 広島）

くらげのパポちゃん

かこさとし 文 中島加名 絵 講談社 〔絵本〕

少年の父親が戦争によって、南の島で亡くなったことを知った、くらげのパポちゃん。父親の行方を探してあげようと、大海原へ向かいますが…。祖父・かこさとしから孫・中島加名へ、そして子どもたちへと受け継がれる、平和への想いが伝わる絵本です。（戦争 平和）

子どもたちへ、今こそ伝える戦争

長新太〔ほか〕 著 杉浦範茂 絵

講談社

〔210 コド〕

子どもの時に戦争を体験した、児童書の作家19人による
実話です。戦争の悲惨さや残酷さ、そして恐ろしさを今こそ子ども
たちに知ってほしい、そんな思いが伝わってきます。

（空襲 生活）

この本をかくして

マーガレット・ワイルド 文 フレヤ・ブラックウッド 絵
アーサー・ビナード 訳 岩崎書店 〔絵本〕

戦争の爆弾が図書館にあたって、町は燃え、図書館の本も
粉々になってしまいました。残った本は、ピーターのお父さん
が図書館から借りていた1冊だけです。 （生活）

これから戦場に向かいます

山本美香 文・写真 ポプラ社

〔319 コレ〕

2012年8月、シリア内線を取材中に銃撃を受けた著者が、
若い人々や子どもたちに伝えたいと撮った戦争の真実。戦場ジ
ャーナリストとしての使命感が感じられる写真ばかりです。
（シリア内線）

さがしています

アーサー・ビナード作 岡倉禎志 写真

童心社

〔絵本〕

ひろしま げんぱく お しゅんかん と き と
広島に原爆が落とされた瞬間に時が止まってしまった
『ものたち』。床屋さんの壁時計、中身が真っ黒焦げになった
べんとうばこ と こ や かべどけい な か み ま くろ こ
お弁当箱…。その『ものたち』が、あの日のことや持ち主のこと
わたし かた
とを私たちに語りかけます。 （生活）

禎子の千羽鶴

佐々木雅弘 著 くまおり純 画

学研パブリッシング

[916 ササ]

ひばく さい な しやうじょ けんめい
被爆により、わずか12歳で亡くなった少女が、懸命に
お いの つる かぞく おも こ
折った祈りの鶴には、家族への思いやりが込められていまし
た。げんぱく こ そう さ さ き さだこ じつ あに
原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんの実の兄が
つづる かぞく ものがたり
つづる家族の物語。 （原爆 広島）

じ 字のないはがき

向田邦子 原作 角田光代 文 西加奈子 絵

小学館

〔絵本〕

そ か い いちうと と う わた
疎開する妹に、お父さんはたくさんのはがきを渡して、
「げんきな日は、はがきにまるを書いて、まいにち まい
い い い さいしょ とど
に入れなさい」と言いました。最初に届いたはがきには、はみ
だすくらいのおお あか
の大きな赤いまる。ところが…。

（生活）

じらい はな
地雷ではなく花をください

じらい はな ぞく
地雷ではなく花をください 続

じらい はな ぞくぞく
地雷ではなく花をください 続々

じらい はな
ありがとう地雷ではなく花をください

こころ じらい はな
心をこめて地雷ではなく花をください

絵 葉祥明 文 柳瀬房子 自由国民社

[絵本]記念、多賀、南部 [369 シラ]十王

せんそう お じらい う
戦争が終わっても、地雷が埋められたままになっています。
それをふんで、たくさんのひといのちを落としたり、てあしをなく
したりしています。地雷のかわりに花をはなうよ
えほん
絵本です。 (地雷)

しらはた しょうじょ
白旗の少女

比嘉富子 作 依光隆 絵 講談社 [916 ヒガ]

たいへいようせんそう まっ き おきなわ せん か なか とみこ
太平洋戦争末期の沖縄で戦火の中をさまよひ、富子は、
に こ あな からだ ふ し ゆ う ろうふうふ たす
逃げ込んだガマ（ほら穴）で体の不自由な老夫婦に助けられま
した。ふたり とみこ いのち たいせつ かた しらはた も
二人は、富子に命の大切さを語り、白旗を持ってガマか
で
ら出ることをすすめました。 (沖縄戦)

すぎはらちうね いのち じゆう みち 杉原千畝と命のビザ 自由への道

ケン・モチツキ 作 ドム・リー 絵

中家多恵子 訳 汐文社 [絵本]

がいこうかん すぎはらちうね ひなん
外交官・杉原千畝は、ポーランドから避難してきたユダヤ人
たい にっぽんせいふ そむ はっきゅう つづ
に対し、日本政府に背いてビザを発給し続けました。
とうじ さい むすこ めせん えが ちち ちうね ものがたり
当時5歳だった息子の目線から描かれた、父・千畝の物語で
す。 (ナチス ユダヤ人)

すずばあちゃんのおくりもの

最上一平 文 黒井健 絵

新日本出版社

[絵本]

すずばあちゃんは、あちこちにはな たねの種をまきます。むら ひと
村の人は、「すずばあちゃんのおくりもの」とよんでいます。すず
ばあちゃんがはな たねの種をまくのは、せんそう とし けいけん つら かな
戦争の時に経験した辛く悲し
おも で
い思い出があったからでした。 (生活)

せかいいちうつくしいぼくの村

小林豊 作・絵 ポプラ社

[絵本]

アフガニスタンのちい せうねん
小さな村パグマンに住んでいるヤモ少年
は、はじ まち くだもの う とし せうねん むら
初めて街で果物を売りました。しかし、その年、少年の村
は、せんそう こわ
戦争で壊され、なくなってしまいました。
(アフガニスタン)

せかいでいちばんつよい^{くに}国

デビッド・マッキー 作 なかがわちひろ 訳

光村教育図書

[絵本]

世界^{せかい}征服^{せいふく}をめざした大きな^{おお}国^{くに}の大統領^{だいてりよう}が最後^{さいご}に攻めようとしたのは、平和^{へいわ}で武器^{ぶき}を持たない^も国^{くに}でした。本当に^{ほんとう}強い^{つよ}国^{くに}は、どこでしょう。
(武器)

せかい^{せかい}いちばん^{いちばん}おく^{おく}世界で一番の贈りもの

マイケル・モーパーゴ 作 佐藤見果夢 訳

評論社

[933 モパ]

がらくた^や屋^{みせ}の店先^{さき}にあった^あひどい^{ひどい}ありさま^{ありさま}の机^{つくえ}。それ^{それ}を手^てに入れて^い修理^{しゅうり}をしていると、秘密^{ひみつ}の引き出し^ひを見つ^みけました。その中^{なか}には、最前線^{さいぜんせん}で戦^{たたか}う兵士^{へいし}が妻^{つま}にあてた手紙^{てがみ}がありました。
(生活)

せんか^{せんか}こ^こ戦火のなかの子どもたち

岩崎ちひろ 作 岩崎書店

[絵本]

ベトナム戦争^{せんそう}が続^{つづ}いていたころ、戦火^{せんか}の中^{なか}で生き、死^いんでいった^し子ども^こたちの想^{おも}いを描^{えが}いた本^{ほん}です。短^{みじか}い言^{こと}葉^ばと優^{やさ}しく柔^{やわ}らかい絵^えで生きる^いことの厳^{きび}しさを伝^{つた}えています。
(ベトナム)

せんじょう ひみつとしょかん
戦場の秘密図書館

マイク・トムソン 著 小国綾子 編訳

文溪堂

[O10 セン]

ないせんか まち ひら ひみつ
内戦下のシリアの町ダラヤに、ひっそりと開かれた秘密の
としょかん ぜつぼうてき じょうきょう ひとひと ばしよ
図書館。絶望的な状況の人々をささえたその場所は、やがて
ぐん ぶ ひとひと こころ
軍によって踏みにじられてしまいます。しかし、人々の心
に、希望の種はまかれていたのです。 (生活)

せんそう まち
戦争が町にやってくる

ロマナ・ロマニーシン、アンドリー・レシヴ 作

金原 瑞人 訳 ブロンズ新社 [絵本]

はな そだ とり くさき はな うつく まち
花を育て、鳥や草木に話しかけながら、美しい町・ロンド
ひとひと たの く ひ せんそう
で人々は楽しく暮らしていました。そんなある日、「戦争」が
まち
町にやってきて…。ウクライナの作家が子どもたちに向けて、
せんそう へいわ えが えほん
戦争と平和について描いた絵本です。 (戦争)

ひ
せんそうがやってきた日

ニコラ・デイビス 作 レベッカ・コップ 絵

長友恵子 訳 鈴木出版 [絵本]

ごぜんちゅう じゅぎょう お せんそう
午前中の授業が終わり、ランチタイムのすぐあとに戦争がや
ってきました。戦争はどこまで逃げても追いかけてきます。そ
せんそう ふ はら こ
の戦争を振り払ってくれたのは、子どもたちのやさしさでし
た。 (生活)

せんそうしない

たにかわしゅんたろう ぶん えがしらみちこ え
講談社 [絵本]

なぜ、人間^{にんげん}だけが、人間^{にんげん}の大人^{おとな}だけが、戦争^{せんそう}をやめられない
のでしょうか。大人^{おとな}が守^{まも}っていかなければならないのは、子^こ
もたちの何気^{なにげ}ない日^{にち}常^{じょう}と笑顔^{えがお}です。作者^{さくしや}の言葉^{ことば}は、静^{しず}かに、
ゆっくりと読^よむ人^{ひと}の心^{こころ}にしみ込^こんでいきます。

(生活)

せんそうたいけん かた つ 戦争体験を「語り」・「継ぐ」

学研プラス [319 セン]

戦争^{せんそう}を体験^{たいけん}していない世代^{せだい}が、どのように戦争^{せんそう}体験^{たいけん}を語り継^{かた}
いでいくのか？

この本^{ほん}で紹介^{しょうかい}されている、広島^{ひろしま}・長崎^{ながさき}・沖縄^{おきなわ}での語り継^{かた}
ぐ活動^{かつどう}や平和教育^{へい わきょう}を知^しり、考^{かんが}えたこと、感^{かん}じたことをみんなで
話^{はな}し合^あう、それが「語り」「継ぐ」こと^{こと}の第一^{だいいっ}歩^ぽです。

(生活)

せんそう 戦争は、

ジョゼ・ジョルジェ・レトリア 文

アンドレ・レトリア 絵

木下真穂 訳 岩波書店 [絵本]

戦争^{せんそう}は、まるで病^{びょう}気^きのように忍^{しの}び寄^より、憎^{にく}しみや野^や心^{しん}を糧^{かて}
して育^{そだ}ち、日^{にち}常^{じょう}をずたずたにするもの…。ポルトガル^{だいひょう}を代^{だい}表^{ひょう}
する文学^{ぶんがく}者^{しや}の詩^しと、その息^{むすこ}子^こによる絵^えで、戦争^{せんそう}の恐^{おそ}ろしさを描^{えが}
きます。

(戦争)

せんそう ひと
戦争をやめた人たち

鈴木まもる 文・絵 あすなろ出版

[絵本]

1914年、第一次世界大戦からわずか5ヶ月後のクリスマス
イブ。フランスやベルギーに攻め込むドイツ軍と、むかえうつ
イギリス軍との最前線で実際に起こった話です。
(第一次世界大戦)

だんしゃく
そらいろ男爵

ジル・ボム 文 ティエリー・デデュー 絵

中島さおり 訳 主婦の友社 [絵本]

とり と あお そら どくしょ あい だんしゃく
鳥が飛ぶ青い空と、読書をこよなく愛したそらいろ男爵。
ユニークな方法で国と国との戦いをやめさせました。
おてせい ひ こう き の せんそう お だんしゃく さいご
お手製の飛行機に乗り、戦争を終わらせるために男爵が最後
とう か
に投下したものは…。 (武器)

たいよう こ
太陽の子 てだのふあ

灰谷健次郎 作 田畑精一 絵 理論社

[F ハイ]

ふうちゃんは、おきなわしゅっしん どう かあ こうべ たの
ふうちゃんは、沖縄出身のお父さんとお母さんと神戸で楽し
く暮らしていました。ところが、ふうちゃんが6年生のとき
とう こころ びょうき
父さんが心の病気にかかりました。 (沖縄戦)

だれのこどももころさせない

西郷南海子 文 浜田桂子 絵

かもがわ出版

[絵本]

「きょうのよる、せんそうにならない？」戦争の不安におびえる子どもを安心させたいという母親の願いを伝えます。
(生活)

ちいちゃんのかげおくり

あまんきみこ 作 上野紀子 絵

あかね書房

[絵本]

お父さんが戦争に行く前の日、ちいちゃんの家では、家族で
かげおくりの遊びをしました。空襲の夜、家族とはぐれたち
いちゃんは、かげおくりの夢を見ながら亡くなりました。
(空襲 生活)

父さんの手紙はぜんぶおぼえた

タミ・シュムニトヴ 著 母袋夏生 訳

岩波書店

[929 シエ]

オランダにナチス・ドイツが侵攻すると、ユダヤ人少女リ
ーネケは、身を守るために、家族とはなれ遠い村の家にあずけ
られました。彼女の心の支えは、父親からのユーモアあふれる
絵入りの手紙でした。(ナチス ユダヤ人)

としょかん

図書館にいたユニコーン

マイケル・モーパーゴ 作 ゲーリー・ブライズ 絵

おびかゆうこ 訳

徳間書店

[933 モパ]

トマスは、^{がっこう}学校からかえると、いつも^{もり}森へあそび^いに行きます。
ある^ひ日、お母^{かあ}さんに連れられて行った^{としょかん}図書館で、木^きでできた^でユニコーンに出会いますが、やがて^{せんそう}戦争がやってきます。
(生活)

トットちゃんの15つぶのだいず

黒柳徹子 原案 柏葉幸子 文 松本春野 絵

講談社

[絵本]

トットちゃんが^{しょうがっこう}小学校2年生の時、日本は戦争を始め、^あ当たり^{まえ}前の^{にちじょう}日常が奪^{うば}われてしまいます。1日^{にち}に食^たべられる食^たべ物^{もの}は、大豆^{だいず}がたったの15粒^{つぶ}だけでした。トットちゃんは、お腹^{なか}が空^すいて全部^{ぜんぶ}食^たべてしまおうかと悩^{なやみ}みます。

こんな^{じょうきよう}状^{ねん}況^{つつ}が、4年も続いたのです。(生活)

トビウオのぼうやはびょうきです

いぬいとみこ 作 津田櫓冬 絵

金の星社

[絵本]

1954年^{ねんたいへいよう}太平洋^{かんしやう}ビキニ環礁^{すいそばくだん}で、水素^{じっけん}爆弾^{えいきやう}の実験^うがありました。
た。実験^{じっけん}の影響^{えいきやう}を受けて、トビウオのぼうやは、病^{びやうき}気^きにかか
ってしまいました。(水素爆弾)

ドームがたり

アーサー・ビナード 作 スズキコージ 画

玉川大学出版部

[絵本]

100^{ねんいじょう}年以上も^{ひろしま}広島を、^{せかい}世界を^み見てきたドーム。そばに立つ^とと、^{とお}遠いものもち^ちっちゃいものも、^みみんな見えてくる。ドームとは^{なん}何なのか…。^{みらい}未来へ^{きおく}記憶をつなぎます。(生活)

なきむしせいとく

たじまゆきひこ 作

童心社

[絵本]

ここは1945年の^{おきなわ}沖縄。^{しょうねん}少年「^なせいとく」は、いつも泣いているので、みんなから「^よなちぶー」と呼ばれています。ある日、^ひ母と^{はは}妹^{いもうと}の3人で^{にん}南へ^{みなみ}逃げることにになりますが…。
^{へいわ}平和を^{ねが}願い、^{おきなわ}沖縄を^み見つめ^{つづ}続けてきた^{さくしゃ}作者が^{えが}描いた^{おきなわせん}沖縄戦の^{えほん}絵本です。(沖縄戦)

はだしのゲン 全10巻

中沢啓治 汐文社

[726. 1ハダ]

ゲンの^{かぞく}家族は、^{ひろしま}広島に^お落とされた^{げんばく}原爆の^{ひがい}被害を^う受けました。しかし、ゲンたちは、^や焼け^の野原となった^{まち}町でたくましく^い生きぬいていきます。(原爆 広島)

はは つく 母が作ってくれたすごろく

アネニルト・ウェルトハイム 文 長山さき 訳

徳間書店

[949 ウエ]

8歳^{さい}のとき私は^{わたし}、母^{はは}と姉^{あね}と弟^{おとうと}とともに、日本^{にほん}軍の「抑留^{よくりゅう}所^{じょ}」に入れられました。2年^{ねん}あまりをインドネシアの抑留^{よくりゅう}所^{じょ}で過ごしたオランダ人^{じん}女性^{じょせい}が、当時^{とうじつ}使っていたものや絵^えに寄せて語った記録^{きこく}です。 (生活^{せいかつ})

はんぶん 半分のふるさと 私^{わたし}が日本^{にほん}にいたときのこと

イ サンクム 著 帆足次郎 画

福音館書店

[916 イ]

韓^{かん}国^{こく}人^{じん}の私^{わたし}は、1930年^{ねん}に日本^{にほん}に生まれ、15年^{ねん}間^{かん}戦^{せん}時^じ下^かの日本^{にほん}で差別^{さべつ}を受けながら生きてきました。それでも、日本^{にほん}は、半^{はん}分^{ぶん}のふるさとだと語る著者^{かくしや}の自伝^{じでん}です。 (差別 生活)

ひかり 光にむかって

くさばよしみ 編 やまなかももこ 絵

汐文社

[絵本]

ローサー^{せつこ}節子^{さい}さんが13歳^{とき}の時に広島^{ひろしま}で被爆^{ひばく}した体験^{たいけん}や、姉^{あね}や甥^{おい}、多^{おほ}く^{ゆうじん}の友人^なを亡^{かな}くした悲^{かな}しみと憤^{いきどお}りが描^{えが}かれています。ノーベル平和^{へい}賞^{しょう}授^{じゅう}賞^{しょう}式^{しき}でのスピーチ^{スピーチ}をもとに作^{つく}られた絵^え本^{ほん}です。 (原爆 広島)

ひと はな
一つの花

文 今西祐行 絵 鈴木義治 ポプラ社

[絵本]

「一つだけ ちょうだい。」これが、ゆみ子の覚えた最初の言葉でした。駅で「一つだけ ちょうだい。」と泣き出すゆみ子にお父さんは一輪のコスモスを渡し、戦地に旅立っていきました。（生活）

ひばくしゃ
被爆者

ひばくしゃ ぞく
被爆者 続

会田法行 写真・文 ポプラ社 [319ヒバ]

広島・長崎で被爆した人々が後世に伝えるべき使命を持って、自分の体を示して語って聞かせます。話の内容は、重みを持って私たちの心に迫ります。（原爆 広島 長崎）

き
ヒロシマ消えたかぞく

指田和 著 鈴木六郎 写真 ポプラ社 [絵本]

「あしたは、なにをしようかな。ね、おにいちゃん？」戦時中にも“明日”がありました。父親が撮ったいくつもの写真。幸せそうな笑顔の家族がそこにあります。それをすべてうばった戦争とは…。女の子の目線で描かれたヒロシマのある家族の記録。（原爆 広島）

ひろしまのピカ

丸木俊 え・文 小峰書店

[絵本]

「ピカは、ひとがおとさにゃ、おちてこん」

ひろしま げんばく
広島で原爆にあったみいちゃんと家族は、激しい火の中
に まち しごく
を逃げました。町は、地獄のようでした。（原爆 広島）

みず

ヒロシマのいのちの水

指田和 文 野村たかあき 絵 文研出版

[絵本]

まいとし がつ か ひろしまし へい わ き ねん しきてん げんばく いれい ひ みすくよう
毎年8月6日、広島市の平和記念式典で原爆慰霊碑に水供養
をおこ じよせい う ね とし え か し ょ いれい
を行なう女性がいいます。宇根利枝さんは、120ヶ所もある慰霊
ひ みず ささ かつどう ねんいじょう つづ
碑に水を捧げる活動を 50年以上も続けてきました。そのきっ
かけとなった体験を広島を訪れた子どもたちに語ります。
(原爆 広島)

ヒロシマをのこす

佐藤真澄 著 汐文社

[319 ヒロ]

こくないがい おお ひと おとす ひろしまへい わ き ねん しりょうかん
国内外から多くの人々が訪れる「広島平和記念資料館
げんばくしりょうかん へい わ うった ひとびと さけ ひび しりょうかん
(原爆資料館)」。平和を訴える人々の叫びが響く資料館
は、ひとりの 男 おとこ しゅうねん どりよく たんじょう
の執念と努力によって誕生しました。
(原爆 広島)

ファニー 13歳の指揮官

ファニー・ベン＝アミ 著 伏見操 訳

岩波書店

[929 ペン]

フランスで暮らしていたユダヤ人の13歳の少女、ファニー。1943年、ユダヤ人迫害のなか、大勢の子どもたちの命を預かるリーダー役として、スイスへ子どもたちだけの危険な逃避行をします。戦争体験の実話です。

(ユダヤ人)

ふたりの約束

ブニーナ・ツヴィー マーギー・ウォルフ 文

イザベル・カーディナル 絵

金原瑞人 訳

西村書店

[絵本]

両親から3つの金貨を渡され、なにがあっても妹のレイチェルと一緒にいることを約束した姉のドビー。ナチスは両親を連れ去り、姉妹はアウシュビッツ強制収容所に入れられてしまいます。そこでは、おそろしい危険が待ち構えていました。勇敢な姉妹の実話。(ナチス ユダヤ人)

へいわってすてきだね

安里有生 詩 長谷川義史 画

ブロンズ新社

[絵本]

沖縄全戦没者追悼式の「平和のメッセージ」に寄せた小学1年生の詩です。「へいわってなにかな。」友達や家族と、みんなで平和について考えてみましょう。(生活)

へいわってどんなこと？

浜田桂子 作 童心社

[絵本]

きつとね、^{へいわ}平和ってこんなこと。^{せんそう}戦争をしないこと、^{ばくだん}爆弾な
^おんか落とさないこと…。いろいろなことから^{へいわ}平和を^{かんが}考えま
す。 (生活)

へいわとせんそう

たにかわしゅんたろう ^{ぶん} Noritake え

ブロンズ新社

[絵本]

へいわのボクとせんそうのボク、へいわのワタシとせんそう
のワタシ。^{なに}何が^か変わるのだろう。^{くら}比べてみると^{ちが}違いが^み見える
^{へいわ えほん}平和絵本です。 (生活)

へいわ

平和のバトン

弓狩匡純 作 くもん出版

[319 ペイ]

^{ひろしましりつもとまちこうこう} 広島市立基町高校の^{せいと}生徒たちが、^{ひばくしゃ}被爆者の^{はなし}話を^き聞き、^{げんぱく}原爆
の^え絵を^{ねん}1年かけて^{かんせい}完成させていきます。^{きおく}記憶を^{きろく}記録に^{のこ}残すこと
で、^{じせだい}次世代へと^{へいわ}平和のバトンがつながっていきます。
(原爆 広島)

へいわ めがみ 平和の女神さまへ

小手鞠い 作 サトウユカ 絵

講談社

[319 ペイ]

せかいじゅう さまざま じだい こ たち してん み せんそう
世界中の様々な時代の子供達の視点から見た戦争、テロな
どについて語られています。戦争が引き起こす げんぱく たい さべつ
ひさん つた こ たち ことば へいわ ふか
悲惨さを伝えています。子供達の言葉から、平和について深
く かんが えさせられる 1冊です。

(戦争 テロ)

ぼくがラーメンたべてるとき

長谷川義史 作・絵 教育画劇

[絵本]

ぼくがラーメンを食べているとき、となり なに
でしょう。 となり くに なに お
隣の国では何が起こっているのでしょうか。 とな そら
した い ひと いま えが
の下で生きる人たちの今を描いています。(生活)

ぼくはうそをついた

西村すぐり 作 中島花野 絵

ポプラ社

[F ニシ]

ひろしま しょうがく ねんせい そ ふ げんぱく な
広島の小 学 5年生リョウタは、祖父から原爆で亡くなった
おおおじ はなし き じぶん す まち ある げんぱく
大おじの 話を聞きます。そして自分の住む街を歩き、原爆の
きず かんが はじ せんぱい げんぱく
傷について 考え始めました。いっぽう先輩のレイは、原爆で
むすこ な そう そぼ すく おも へいわ
息子を亡くした曾祖母を救いたいと思っていますが…。平和へ
いの こ ものがたり
の祈りを込めた物語です。(原爆 広島)

まちゃんと

文 松谷みよ子 絵 司修 偕成社 [絵本]

ひろしま げんぱく おんな こ くち い
広島で原爆にあった女の子は、トマトを口に入れてや
と、「まちゃんと」と言ってもっとほしがりました。やがて、
おんな こ し
女の子は死んでいきました。 (原爆 広島)

マヤの一生

椋鳩十 作 大日本図書 [F ムク]

いぬ か そく いちいん こ いっしょ おお
犬のマヤは、家族の一員として、子どもたちと一緒に大
きくなりました。ところが、せんそう はじ しょくりよう ふ そく
戦争が始まると食糧が不足し
てか いぬ つぎつぎ ころ ぎ せい
飼犬たちが次々と殺され、マヤも犠牲になりました。
(動物)

マララのまほうのえんぴつ

マララ・ユスフザイ 作 キャラスクエット 絵
木坂涼 訳 ポプラ社 [絵本]

ちい く おんな
マララは、パキスタンの小さなまちに暮らす、ふつうの女
の子です。自分、そしてすべての子どもたちのまな
かがや みらい
輝く未来のために、マララがことば せ かい か ものがたり
言葉で世界を変えた物語です。
(生活)

むすめ ながさき
娘よ、ここが長崎です

筒井茅乃 作 くもん出版 [916 ツツ]

ねん がつ か ながさきし げんぱく とう か
1945年8月9日長崎市に原爆が投下されました。

な が いたかしは か せ じ し ん じゅうしょう お ひとびと きゅうご
永井隆博士は、自身も重傷を負いながら人々の救護にあたりました。

ちち たかし すがた み さくしゃ おとな せんそう ひさん
父 隆の姿を見つめていた作者が大人になり、戦争の悲惨さと平和の尊さを娘に語り伝えます。

(原爆 長崎)

ものがたりチロヌップのきつね

高橋宏幸 作 金の星社 [F タカ]

きた うみ とう こ
北の海のチロヌップ島で、おじいさんとおばあさんは子ぎつねと仲良くなりました。しかし、戦争が激しくなると、兵隊が上陸して毛皮を取り始めたため、きつねの家族は、命を奪われました。
(動物)

やくそく

那須正幹 さく 武田美穂 え

ポプラ社

[絵本]

ちゅうがくせい
ばあちゃんは、ぼくが中学生になったころから、ぼくを「にいちゃん」とよぶ。ばあちゃんの兄さんは原爆で死んだのに…。3歳のときに広島で被爆し、生涯をかけて平和を願い続けた児童文学作家、那須正幹が子どもたちに遺した物語です。
(原爆 広島)

や 焼けあとのちかい

半藤一利 文 塚本やすし 絵

大月書店

[絵本]

とうきょうだいこうしゅう きゅうし いっしょう え はんどうしょうねん や
東京大空襲で九死に一生を得た半藤少年。焼けあとで、
「絶対」という言葉は二度と使わないと心こころに決めました。し
かし今いま、「絶対」という言葉ことばを使って、どうしても伝えたい思
いがあります。その思いとは…。 （東京大空襲）

わたしがちいさかったときに

げんばく こ ほか
「原爆の子」他より

長田新〔ほか〕編 いわさきちひろ 画

童心社

[916ワタ]

さくぶん し こうせい ほん さくぶん ひろしま ひばく こ
作文と詩で構成された本です。作文は、広島で被爆した子ども
たちの文集「原爆の子」から抜粋しました。詩は、「原子雲
の下より」から抜き出して作られました。
（原爆 広島）

へいわ き ワングリの平和の木

ジャネット・ウィンター 作 福本友美子 訳

BL出版

[絵本]

ワングリ・マータイは、アフリカのケニア山さんのふもとのみど
りゆたかな村むらにうまれました。ふるさとのケニアに緑みどりを取り
もとそうとはじめた運動うんどうは、やがてせかいに大きく広がって
いきます。 （生活）

よ ほん で ことば
読んでほしい本に出てくる言葉

おきなわせん
○ 沖縄戦

1945年3月 約55万人のアメリカ兵が沖縄に上陸した。6月23日に日本兵が全滅して戦争が終わる。県民の約4分の1の13万人が犠牲になった。

がくどうそかい
○ 学童疎開

戦争中に空襲の被害を避けるため、都市の子どもたち小学三年生から六年生を農村へ移動させた。

き じゅうそうしゃ
○ 機銃掃射

機関銃で敵を続けて撃つこと

きょうせいしゅうようじょ
○ 強制収容所

国家が司法的な手続きなしに、一部の住民を収容・拘禁した場所

くうしゅう
○ 空襲

空から飛行機やミサイルによって、建物や都市を攻撃すること

げんばく げんしばくだん
○ 原爆（原子爆弾）

原子核に核分裂を起こさせ、この原子核ときに生じる高熱や放射線を含む巨大な爆発力を利用する爆弾。

1945年に広島、長崎に原爆が落とされた。

読んでほしい本に出てくる言葉

じらい
○ 地雷

ちじょう じめん お ふ くるま ひと きす ころ
地上、地面に置き、これに触れた車や人を傷つけ、殺すこ
もくてき ばくやく
とを目的とした爆薬

すい そばくだん
○ 水素爆弾

すい そ かくゆうごうはんのう りょう ばくだん
水素の核融合反応を利用した爆弾

だいに じせ かい たいせん
○ 第二次世界大戦

ねん がつ せ
1939年9月 ドイツがポーランドに攻めこんだ。これ
たい せんせん せんそう はじ
に対し、イギリス、フランスがドイツに宣戦して戦争が始まっ
た。1941年に日本がアメリカ、イギリスに宣戦して、
たいへいようがわ ひろ
太平洋側にも広がった。

たいへいようせんそう
○ 太平洋戦争

だいに じせ かい たいせん ねん がつ ねん
第二次世界大戦のうち1941年12月から1945年8
が たいへいようち い き せんそう
月までのアジアと太平洋地域の戦争

とうきょうだいこうしゅう
○ 東京大空襲

ねん がつ か よ か よ あ まえ
1945年3月9日の夜ふけから10日の夜明け前につ
とうきょう したまち たい おこ ぐん ばくげき
て、東京の下町に対して行なわれたアメリカ軍による爆撃。
やく まんにん ひと な
約10万人の人が亡くなった。

○ ナチス

こっかしゃかいしゅぎ ろうどうとう つうしゅう
国家社会主義ドイツ労働党の通称。
とうしゅ ねん せいけん にぎ
ヒトラーを党首に1933年 政権を握った。

はいきゅう
○ 配給

せんそうちゅう せいふ しなもの じゅう はんばい きんし こくみん
戦争中に政府が品物の自由な販売を禁止して、国民に
ゆうりょう はいふ せいど
有料で配布するようにした制度

○ ビザ

がいこく にゅうこく ひと くに りょう
外国に入国しようとする人が、あらかじめその国の領
じ しゅとく ひつよう しょういん さしやう
事から取得しておくことが必要な証印。査証ともいう。

ひばく
○ 被爆

げんぱく お ほうしゃせん う
原爆が落とされたとき、放射線を受けること。
かみ け め は つめ ち で はっけつびょう が ん
髪の毛が抜けたり歯ぐきや爪から血が出たり白血病やガンな
びょうき
どの病気になった。

せんそう
○ ベトナム戦争

ねんだい お せんそう きた みなみ わ
1960年代にベトナムで起こった戦争。北と南に分かれて
いたベトナムは、1975年に統一された。
ねん とういつ

参考にした本

「アジア・太平洋戦争」ポプラ社

「池上彰の現代史授業」昭和編① ミネルヴァ書房

「世界大百科事典」平凡社

「せんそうってなんだったの？」学研

「ジュニア日本の歴史辞典」岩崎書店

「読む日本の歴史」古川清行 著 あすなろ書房

ひたちし せんさい きろく 日立市の戦災の記録

ひたちし たいへいようせんそうちゅう しょうわ ねん
日立市は、太平洋戦争中の昭和20年
ねん さんど おお ひがい う
(1945年)に三度にわたる大きな被害を受け
ました。

ひたちせいさくしょひたちこうじょう ばくだんとうか
6月10日 日立製作所日立工場への1トン爆弾投下

ひたち たが じゅうおうちく かんぼうしゃげき
7月17日 日立・多賀・十王地区への艦砲射撃

げんざい ひたちしぜんいき しょういだんとうか
7月19日 現在の日立市全域への焼夷弾投下

ひたちし しがいち わり しょうしつ
日立市は、市街地の8割が消失。

いしはま わり じゅうたく しょうしつ
(伊師浜では、6割の住宅が焼失。)

じゅうおうまち せんそうたいけん きろく

十王町の戦争体験の記録

〔L916 ジュ〕 記念、十王、南部

〔L213.1 ジュ〕 多賀

十王町教育委員会 編 十王町教育委員会
平成 7 年

せんさい けいけん せんちゅうせんご しゅき ちょうみん ぼしゅう つく
戦災にあった経験や戦中戦後の手記を町民から募集して作

ほん かんまつ ねんびょう き さい
られた本です。巻末に年表が記載されています。

せんさい せいかつ

戦災と生活

ひたちしみん きろく
日立市民の記録

〔L369 セン〕 記念、南部 〔L213.1 セン〕 多賀

〔L369.3 セン〕 十王

日立市の戦災と生活を記録する市民の会 編
日立市役所 昭和 54 年

ひたちしな せんさい たいけん せんちゅうせんご せいかつ しゅき
日立市内で戦災にあった体験や、戦中戦後の生活の手記を
しみん ぼしゅう つく ほん とうじ しりょう ねんびょう き さい
市民から募集して作られた本です。当時の史料や年表も記載
されています。

ひたちせんさいし

日立戦災史

〔L369 ヒタ〕 記念 〔L213.1 ヒタ〕 多賀

〔L369.3 ヒタ〕 十王、南部

日立市の戦災と生活を記録する市民の会 編
日立市役所 昭和 57 年

ひたち せんさい ちゅうしん きじゅつ ほん せんさい せいかつ
日立の戦災を中心に記述した本です。「戦災と生活」の
しまいへん
姉妹編です。

日立市の戦災と記録

ひたち くうしゅう

日立の空襲

〔L213 ヒタ〕 記念、南部 〔L213.1 ヒタ〕 多賀

〔LR213.1 ヒタ〕 十王

日立市郷土博物館 編 日立市郷土博物館

平成15年

ふうか せんさいたいけん ほ お せんそう ひさん つた
風化されつつある戦災体験を掘り起こし、戦争の悲惨さを伝
えようとした本です。「戦災と生活」の姉妹編です。

みらい かた つ ひたち せんさい

未来へと語り継ぐ日立の戦災

〔L213.1 ミラ〕

日立市生活環境部市民活動課 編

日立市生活環境部市民活動課 平成28年

ひさん せんそう きおくひとひと こころ なか ふうか
悲惨な戦争の記憶が人々の心の中で風化されつつありま
す。日立市が受けた大規模な戦災の様子や市民の戦災体験を
きろく のこ とく わか せだい つた せんさいたいけんだん ほしゅう
記録に残し、特に若い世代に伝えるために戦災体験談を募集し
て作られた記録集です。

戦後 80 周年記念 戦争と平和を考える子どもの本 2025

発行日 令和7年8月1日

編集・発行

日立市立記念図書館

〒317- 0073 日立市幸町 1-21-1

電話 0294 (24) 7714

IP 050(5528)4946

日立市立多賀図書館

〒316- 0006 日立市末広町 1-1-4

電話 0294 (33) 2655

IP 050(8012)6952

日立市立十王図書館

〒319- 1304 日立市十王町友部 202-1

電話 0294 (20) 2345

IP 050(5528)4921

日立市立南部図書館

〒319- 1222 日立市久慈町 3-24-1

電話 0294 (29) 1125

IP 050(5528)4950

核兵器廃絶・平和都市宣言

世界の平和と安全は、人類共通の願いである。

いま、国際的な核軍拡競争は、核戦争の危機を増大し、人類生存の恐怖となっている。

私たちは、再び「広島」「長崎」のあの惨禍を繰り返さないためにも、すべての国に対し、核兵器の廃絶と軍縮を求め、いかなる国の核兵器も許してはならない。

一瞬にして尊い命を奪い、財産を灰にしてしまったあの悲惨な戦争をいかなる理由があろうとも繰り返してはならない。

日立市は、日本国憲法の恒久平和の理念に基づき、核兵器の廃絶と人類永遠の平和を希求し、ここに「核兵器廃絶・平和都市」となることを厳粛に宣言する。

昭和60年12月24日

日立市